

# 2000誌 に せ ん し

第32号  
発行(社)鹿児島県建築協会  
青年部会  
鹿児島市城山町2-13  
TEL(099)224-5220



青年部会長  
有村 幸光

平成二四  
年度から青  
年部会の七  
代目部会長

を仰せつかり、早いもので任期の二年  
を迎えようとしています。

一二年間、青年部会の活動に対し、  
深いご理解とご協力を賜りまして誠  
にありがとうございます。

今年度も「若手けんちくリーダーの  
集い」と題して会員増強と後継者育成  
を軸に時代に見合った事業として経  
営者講習会、交流会を行い、それらの  
事業と今までの活動の繋がりをきつ  
かけに青年部会の活動を理解して頂  
くことで、平成二六年度からは多くの  
新会員を迎えることになりました。こ  
れからも青年部会全員で自己研鑽  
力を高め、若者らしい柔軟な発想力と  
行動力を活かした幅広いネットワー  
クの構築、そして内外部への情報発信  
を行っていくことが大事なことだと  
考えます。

また、「かご  
しま住まいと建  
築展」に参加し、  
青少年育成事業  
(かごしま住ま  
いと建築展)に県

内の建築を学ぶ工業高校生・専門学校  
生を招待)を行い、未来を担う学生た  
ちに業界への興味を持ってもらい建  
築業界のアピールを行うことができ  
ました。さらに、新しい取組みとして、  
工業高校生・専門学校生と意見討論を  
行う場を設け、学生、先生方から多く  
の積極的な意見を頂くことができ、今  
後とも次世代の若手人材の確保につ  
なげていく機会になるよう発展継続  
していきたいと考えています。

これからもさらなる活動への取組  
み、地域貢献、社会福祉と我々青年部  
会組織の社会的地位の向上も念頭に  
おいて活動していく所存です。

今後も青年部会として、各委員会  
を中心に会員皆様の企業の発展に結  
び付くような事業を中心に活動して  
参りますので、引き続き平成二六年度  
新理事役員へのさらなるご支援、ご協  
力をお願い申し上げます。

## 総務・IT委員会



総務・IT委員長  
川崎 啓二

平成二  
四・二五年  
度、総務・  
IT委員長  
を仰せつか

りました川崎啓二と申します。  
月日が経つのは早いもので、あつとい  
う間に年度末を迎えた気が致します。  
今年度も四月の定時総会に始まり、  
会報誌の発行、鹿児島・宮崎・熊本の  
三県からなるIT研修会、先月行われ  
た臨時総会の運営と、色々な事業に携  
わることが出来ました。青年部会会員  
の皆様のご協力に感謝致します。

私どもの業界は低迷期を経て、消費  
税増税、東京オリンピックの開催決定  
同年に鹿児島国体の開催と、インフラ  
等の整備に伴い多忙になる事が予想  
されます！建設ではなく建築協会と  
して、また、青年部会として何が出来  
るか、何を行動に移して行けばよいか  
をととも考えさせられる一年だった  
気がします。若手経営者の育成、職人  
不足の解消、高校生・大学生などの若  
者の新規雇用、技術の継承...とやるべ  
き事はまだまだあり、永遠のテーマの

ような気がします。次年度からも建築  
に携わる人間としてスキルアップし  
ながら協力して行けたらと考えてお  
ります！二年間ありがとうございました！



平成25年 4月19日  
三県合同IT研修会



会員研修委員長  
内山 吉二

## 会員研修委員会

会員研修委  
員長を任命  
し間もなく  
二年が過ぎ  
ます。自身  
要を得ず、また至らぬ点も多いた  
り、理事役員並びに会員、事務局の皆様  
に支えていただき委員会運営・事業の  
実施を進める事が出来ました。誠に

りがとうございました。  
 二年間共、会員拡大事業と経営者講習会事業を実施し、今年度は三県合同懇談会主管団体としての企画運営も実施いたしました。

まずもって会員拡大が大きな課題でしたが前任の川崎委員長より四年に亘り実施した会員拡大事業を通じ、多くのご入会をいただきました。また経営者講習会は時代に則した内容を採用し、またCPD単位を付与する等の付加価値を高める手法を取り入れました。

新年度も引き続き青年部会運営に携わらせていただきます。この二年間で学んだ事を反映させ、より魅力ある青年部会の創造の一助になればと思います。来期以降も継続して会員拡大が求められます。併せて新入会員の皆様にも積極的に参加いただく為のフォローや、魅力的な事業の実施による内部拡大も必要であると考えます。今後とも皆様のご指導ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



平成26年 2月 7日  
**経営者講習会**

**活動委員会**



活動委員長  
**宇都 孝洋**

活動委員会の委員長として二年間、皆様のご協力もあり

何とか事業を遂行することができました。

内容としては、毎年恒例となっておりますが、県内建築科の高校生・専門学校生を「かごしま住まいと建築展」に招待し、より「建築」に興味を持ってもらい、建築業界への若手育成をすることを目的として実施させていただきました。

「木の香り体験コーナー」「カンナ

削りコーナー」「建築物の完成写真展示のコーナー」を設置し、ご来場の方々にも建築をより深く知ってもらう様に工夫致しました。

また、建築業の若年就業者数減少傾向を受けて、建築業の今後の発展の為に、建築協会青年部会として初めての試みである「学生との意見討論会」を実施いたしました。

意見討論会では、建築業に対するイメージ、今後の建築業動向など学生からの積極的な意見があり、予想以上の盛り上がりを見せましたので、次年度の活動委員会の継続事業として頂きたいと思っております。

二年間、本当にありがとうございました。



平成25年10月27日  
**青少年育成事業「かごしま住まいと建築展」学生との意見討論会**

**卒会者あつし**

青年部会卒会にあたって

伊地知 忠

早いもので、この青年部会に入会して15年の月日が経ちました。

最初の頃は、ほとんど知っている会員の方もいなくてさみしい思いをしたのを、覚えております。これじゃあいかんと思ひ、積極的に委員会にも参加しました。

主に、活動委員会に席をおかせていただき、高齢者世帯の奉仕活動や高校生との建築スクール、住まいと建築展などに参加しました。特に住まいと建築展で青年部会としてブース出展したカンナ削りコーナーの準備には苦労しましたが、その分、体験しに来てくださった方々が、男女を問わず、小さなお子さんからご老人まで楽しんでカンナがけする姿を見て、思わず会員みんなで笑みがこぼれたのを思い出します。

さて、卒会される方、残られる方、卒会の区切りは様々であります。これからは会社組織は建築協会員としてかわりはありませんので、あえて、これからはよろしく申し上げますと

言わせていただきます。

「私にとっての青年部会」

脇田 康弘

先日、2000誌の原稿の依頼があり快諾したのですが、私は青年部会でこれといった役柄を仰せつかったことのない一介の会員として在籍してきた「路傍の石」的な希少な会員でした。

平成八年、青年部会発足の年に入会し、設立総会で緊張して壇上に上がり紹介をされたのはついこの前のことのように思われます。一八年も経つのかと思うと当時に比べて容姿も変わり歳をとったと認識させられます。

この原稿依頼があったことがきっかけで「会員手帳」を開く機会がありました。発足当時はデジタル化された今と違い会員手帳が交付されており、メンバーは昨今現役でも活躍中の尊敬する先輩方が多数在籍しておられました。私の見ている会員手帳は平成一二年度発刊のもので、規約から始まり組織図、事業計画書、親会役員名簿、顔写真付き会員名簿、平成一三年度新入会員名簿、卒会者名簿で構成されており、この時のメンバーは八五名で今

の二・三倍の人員でした。懐かしく思い少し読んでみました。すると規約「第三条」の運営目的に感動し活動を通じて頑張ろうと思った当時の情熱を思い出し、青年部会の役割を再認識させられました。当時の青年部会はずいぶん活発だったので手探り状態で皆一生懸命活動をしていたと思います。

この一八年、私でさえ色々な事がありました。青年部会も会員減少で私の年齢から卒会年齢が四五歳から五〇歳へと延長になりました。不景気、少子化、建設業の低迷で後継者も減り、新入会員も少なくなり、一緒に頑張った仲間が余儀なく退会をし、身の引き締まる思いで見送った事もありました。

私もここ数年出席率も減り、皆さまには多大な迷惑をかけておりますが、私が考えるに、青年部会で活動する上で四五歳がピークであると思います。なかなか五〇歳になると社会に仕事にと重責になります。そう考えるとここ数年景気が戻りそうな予感のある今、会員増強に努め、大人数の中で「東京五輪」の恩恵やリスク、職人不足の問題を議論できる活気のある会にな

ればと思います。

最後に私の経験上、青年部会の役は買っても早いうちから務めたほうが良いと思います。そして、人脈形成や色々自分の肥やしにしてほしいと思います。

卒会者紹介(四名)



卒会者 脇田康弘



卒会者 末廣浩二



卒会者 下小野田 慎



卒会者 伊地知 忠

青年部会員募集

青年部会では会員を募集しています。詳細については、建築協会事務局までお問い合わせください。